



## 【趣旨説明】

日本語教育センター長  
異文化コミュニケーション学部教授  
丸山 千歌

○嶋原 では、早速、講演にまいります。本シンポジウムのコーディネーターは、日本語教育センター長、異文化コミュニケーション学部教授の丸山千歌先生です。では、丸山先生にマイクをお預けいたします。

○丸山 日本語教育センター長の丸山でございます。本日は週末にもかかわらず、日本語教育センターシンポジウムにお越しくださいませ、ありがとうございます。**【スライド①-1】**

まず本日の企画の趣旨説明をさせていただきたいと思えます。

立教大学の日本語教育センターはさまざまな事業を行っておりますが、その事業の1つとして日本語教育センターシンポジウムというのを年1回、開いております。これまで6回、開催をしております。**【スライド①-2, 3】**

本学、今、池上先生からご説明がありましたとおり、国際化を推進しているところでございますが、その国際化推進の目標の1つの中に、留学生の受け入れを増やしていくといった目標がございます。こちらホームページから取ってきているんですけども、201年度では、だいたい500名ぐらいの留学生を、2024年には2,000人に増やしていこうと掲げているところです。**【スライド①-4, 5】**

では、どのような留学生を増やしていくかということになりますが、本学の留学生は現在は4つの種類に分かれております。大別すると、学位の取得を目的としているかどうかということで2つに分かれ、学位取得を目的としている学生に学部の留学生、大学院の留学生がいて、学位取得を特に目的としないほうに交換留学生である特別外国人学生、それから、1週間から3週間のプログラムで立教に

留学してくる短期プログラム生という留学生がいます。【スライド①-6】

こちらは、昨年度の日本語教育センターのシンポジウムで資料に掲載されたものの情報で、これから立教大学が国際化を推進していくに当たってどんな留学生どのくらい増やしていくのかについて目安として示された数です。これを参照しながら、何が必要かということが検討されています。本日テーマにしている正規外国人留学生学部生は、一番上の行にありますように、2016年度には312人だった学生たちを2024年には1,000人にしていこうといった数値が目安として出ています。【スライド①-7】

留学生たちの受け入れと日本語教育センターの仕事というのは大きくかかわってございまして、本センターでは、このシンポジウムの機会を使って、これまで幾つか議論を重ねてまいりました。交換留学生についての議論が2013年度、海外からの研究者をお招きして行いましたし、それから、2016年度は正規大学院留学生を中心とした学部・研究科の先生方との連携というテーマを行いました。また、昨年度は短期留学プログラムを中心に議論を行いました。そこで、本日は、先ほどの表で、大きな目標を掲げていることが示されていた正規学部留学生をテーマにした議論を行いたいと思っております。【スライド①-8】

これの一番の肝は、優秀な留学生に来ていただいて、大学を元気にしていくということになっていくのではないかと、教育を豊かにしていくということになるのではないかなと思うんですけれども、そのために大切なことは、世界各地の中等教育の現場とつながって、優秀な留学生に来ていただくということになっていくのではないかなと思います。

そこで、本日は、正規学部留学生の受け入れの新時代という題にいたしまして、多様な留学生との学びというのが大学を一体どういうふうに変えていくのか。どういった可能性があって、何を考えていかなければいけないか。そして工夫できそうなところは何かということを考えていきたいと思っております。【スライド①-9】

本日のプログラムでございますが、このような流れで進めていきたいと思えます。趣旨説明は、今、私がしておりますが、10分。それから、本学の国際化の方向ということで、国際化担当副総長の池田先生から30分お話をいただきまして、そのあと中国、それからインドネシア、ロシア、それからベトナムの中等教育について、先生方からご報告を20分ずついただきます。その後、休憩を挟み

まして、今度は本学の教育部局、それから関連部署からコメントをちょうだいいたします。その後、全体でディスカッションをしていきたいと思っております。

### 【スライド①-10】

ご登壇いただく各地域の先生には、こちらのスライドにあります3点についてご報告いただくようお願いをいたしました。

まずご登壇くださる先生の地域の日本語教育事情で、中等教育の日本語教育がどのくらい展開されているか。それから、日本語教育の内容はどのようなものか。高校卒業時の日本語レベル。日本語を履修する学生さんたちが関心を持っている専門分野などについてご説明いただけます。次に、高校の日本留学への志向、高校生の日本留学への志向というのがどのようなものかということについてご説明いただけます。そして最後に、高校生が卒業後、直接、日本の大学に入学するということを検討している場合には、どういった課題が考えられるか。また、受け入れの大学にどんな体制を期待しているかということについてお話ししたいと思っております。

昨日それから本日午前中は、登壇者間で時間をかけて意見交換もしてじっくりと準備をいたしました。私自身、先生方とお話をする中で、いろいろな可能性、それから課題というのが見えてきたように思います。きょうはそれを先生方と皆様とディスカッションできるというのを大変楽しみにしているところです。【スライド①-11】

参考情報です。本日は日本語教育の関連の方々もいらっしゃると思えますし、普段、日本語教育にそんなに触れていらっしゃらない先生もいらっしゃると思えますので、ちょっと簡単にお話し申し上げますと、日本語能力試験 JLPT (Japanese-Language Proficiency Test) というのが本日お話に出てまいります。こちらの URL にアクセスしていただきますと、N5 から N1 まで 5 つの段階があります。きょうは各登壇者の先生が高校卒業すると、N5 ですよ、N4 ですよというふうにお話しいただきますので、そこをちょっと頭に入れてながら見ていただくとありがたく存じます。

私の趣旨説明はここまででございます。

では、早速、池田先生に最初のお話をいただきたいと思えます。本日はどうぞよろしく願いいたします。【スライド①-12】

【スライド①-1】

正規学部留学生受け入れの新時代  
—多様な留学生との学びは大学をどう変えるのか—

趣旨説明

立教大学日本語教育センターシンポジウム2017  
2019年1月26日  
日本語教育センター長・異文化コミュニケーション学部教授  
丸山千歌

【スライド①-2】

立教大学日本語教育センターの  
主な事業

- \* 日本語教育プログラム
- \* 短期日本語プログラム(2016~)
- \* 日本語相談室
- \* スピーチコンテスト・漢字検定など



## 【スライド①-3】

## 日本語教育センターシンポジウム

第1回 「大学における日本語教育の意義と可能性」

第2回 「海外の大学が日本の日本語教育機関に期待すること」

第3回 「大学の国際化と大学評価  
ー日本語教育プログラムの貢献をどう評価するかー」

第4回 「大学の国際化と日本語教育における  
プログラム評価ー過去・現在・未来ー」

第5回 「大学の国際化と日本語教育ー発展的で  
持続可能な学部・研究科との連携を目指してー」

第6回 「短期日本語プログラムは大学の国際化にどのように  
生かせるかー日本文化社会講義を通じた学部との連携ー」



## 【スライド①-4】

## 本学において設定された目標(～2024年)

(i) グローバル24 <https://www.rikkyo.ac.jp/global24/>



立教大学  
RIKKYO UNIVERSITY スーパーグローバル大学創成支援採択校

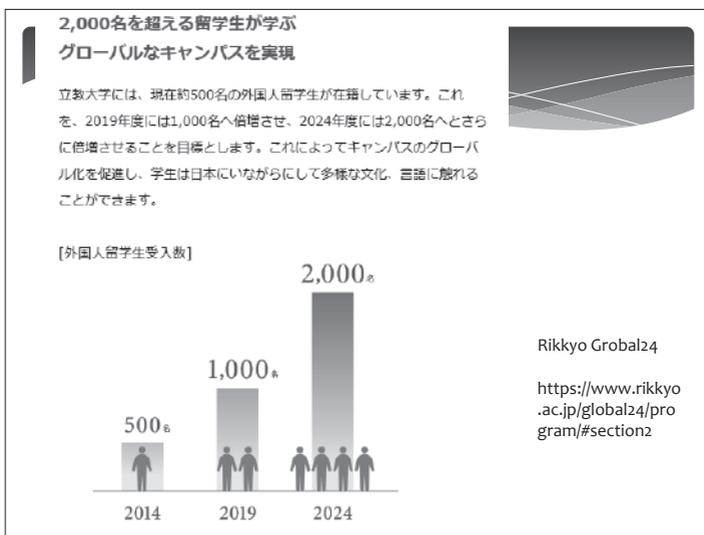
### Rikkyo Global 24 立教大学 国際化戦略

立教大学 スーパーグローバル大学構想

## 世界で際立つ大学への改革

グローバルリベラルアーツ × リーダーシップ教育 × 自己変革力

## 【スライド①-5】



## 【スライド①-6】

## 本学の留学生

学位取得が目的か	
○	学部留学生
○	大学院留学生
×	特別外国人学生
×	短期プログラム生

## 【スライド①-7】

## 1. 2024年に向けた外国人留学生受入数の目標値内訳(案)

	2016年度	2024年度
正規外国人留学生 学部	312→	1,000
正規外国人留学生 大学院・前期及び後期	269→	300
特別外国人学生	296→	350
短期プログラムによる受入学生	17→	350
合計	891→	2,000

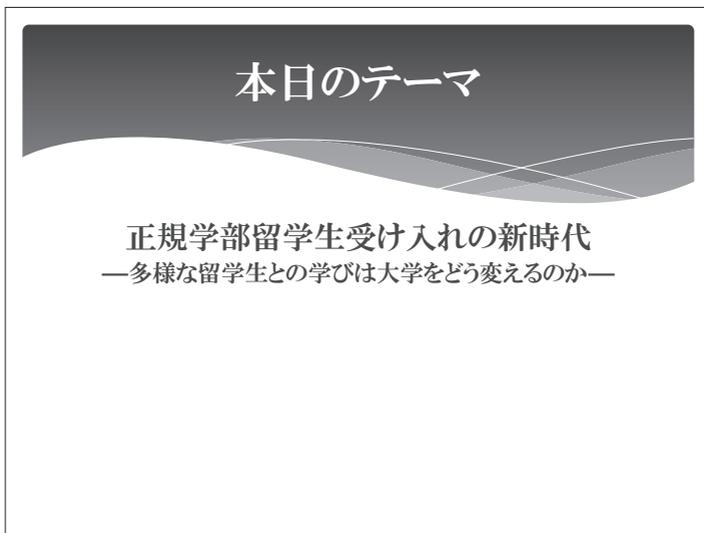
日本語教育センター(2018)『短期日本語プログラムは大学の国際化にどのように生かせるかー日本文化社会講義を通じた学部との連携ー』 p.106.

## 【スライド①-8】

## 多様化する受け入れ形態

- \* 特別外国人学生 ⇒ 2013年度シンポジウム
- \* 正規大学院留学生 ⇒ 2016年度シンポジウム
- \* 短期プログラム生 ⇒ 2017年度シンポジウム
- \* 正規学部留学生 ⇒ 本日！  
     優秀な留学生の獲得  
     ⇒ 世界各地の中等教育へのアプローチ

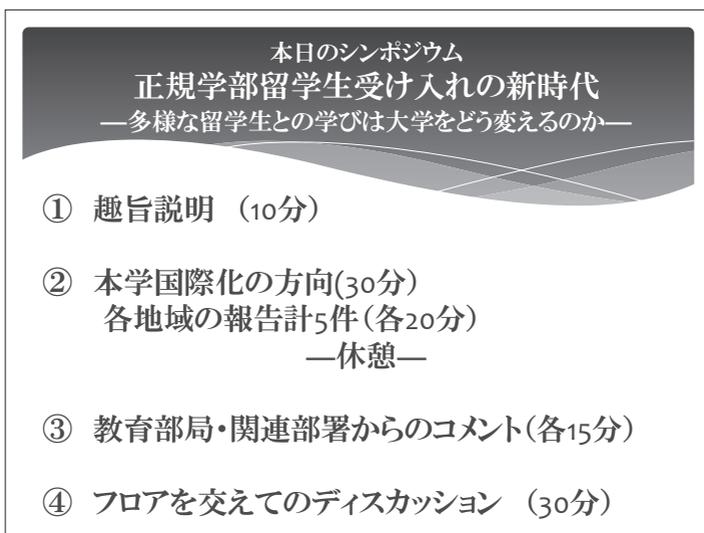
【スライド①-9】



**本日のテーマ**

**正規学部留学生受け入れの新時代**  
—多様な留学生との学びは大学をどう変えるのか—

【スライド①-10】



**本日のシンポジウム**  
**正規学部留学生受け入れの新時代**  
—多様な留学生との学びは大学をどう変えるのか—

- ① 趣旨説明 (10分)
- ② 本学国際化の方向(30分)  
各地域の報告計5件(各20分)  
—休憩—
- ③ 教育部局・関連部署からのコメント(各15分)
- ④ フロアを交えてのディスカッション (30分)

## 【スライド①-11】

## 各地域の登壇者の報告ポイント

### ①当該地域の日本語教育事情

(中等教育の日本語教育がどのくらい展開されているか(=盛んかどうか)、日本語教育の内容、高校卒業時の日本語レベル、日本語を履修する学生が関心を持つ専門分野など)

### ②高校生の日本留学への志向

③高校生が卒業後、(日本語学校などを経ずに直接)日本の大学に入学することを検討する際に考えられる課題、大学の受け入れ体制への期待

## 【スライド①-12】

## 参考情報：日本語能力試験 JLPT

<https://www.jlpt.jp/about/levelsummary.html>